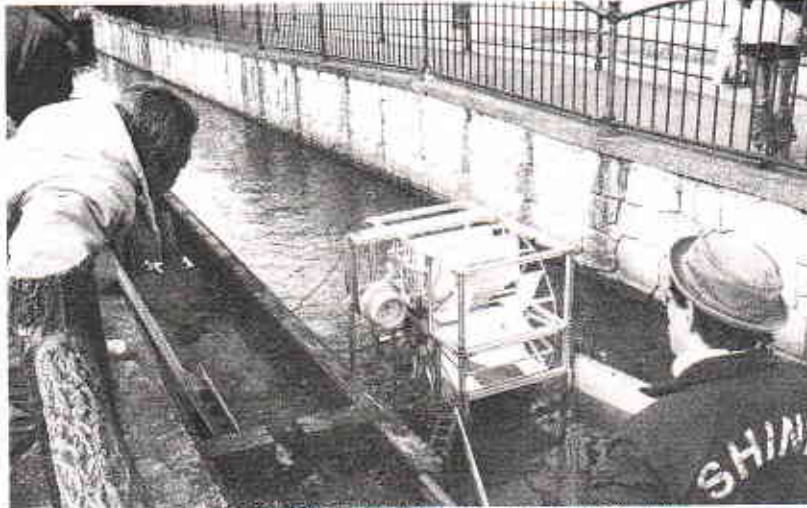


長瀬川で水力発電

NPOが実証実験



長瀬川での実験に使用されたマイクロ水力発電機

東日本大震災をきっかけに電力不足の問題がクローズアップされる中、小規模な水力でも発電が

可能かを確かめる実証実験が26日、安中町の長瀬川流域で実施された。

実験を企画したのはNPO法人の「中小企業サポート隊(跡部本町)」。企業のOBらが集まり、これまで地球環境や電気自動車などをテーマに取り上げてきた。しかし震災後は原子力発電所の安全性を巡る議論から、自然エネルギーが特に注目されることに。この流れに沿ってこのところは「自分たちが暮らすまちの小川で発電ができないか」という課題に1年近く取り組んできた。

水力発電は山岳地帯の流れが急でしかも水量の多い河川ではよく見られ

るものの、市街地を走る小さな川では前例が少ないという。

実験に使用するのは協力メーカーから提供してもらった、流水式のマイクロ水力発電装置。許可を得て高さ約1mの機械を持ち込み、実験してデータを収集する。

この日はJR八尾駅近くの安中町5丁目公園にメンバーが集合、長瀬川で実証実験を行った。発電量は水量などにも左右されるが、実験では20ワットを超える電力が得られた。

法人の理事長を務める浜田典弥さんは「小規模な川でもどれだけ発電できるのか、実際に挑戦してみることで課題も見えてくる。結果をもとに改良を重ねていくことで、中小企業や社会にも還元していきたい」と語る。これまでに集めたデータをまとめ、2月には研究発表会を開くこととして

いる。国の将来的なエネルギー政策の行方に注目が集まっている。まる一方で、地域でもこうした地道な模索が続いている。



実験で得られたデータを集め、分析する

粗大ごみを有料化

市、10月から

八尾市は10月1日から粗大ごみの収集を有料化する。収集料金は1点につき400円とする。ただし幅・奥行き・高さの合計が3mを超える場合は、1点800円となる。持ち込みごみの処理手数料